

## 日本人学生は外国人留学生をどう見ているか －同志社大学の日本人学生からの視点－

### How Do Japanese University Students See Foreign Students?

梶原 雄

#### 要 旨

2008年に日本政府が発表した「留学生30万人計画」によって外国人留学生の来日が急増し、日本全国の多くの大学ではキャンパス内の国際化が一層進み、日本人学生と外国人学生との交流の機会も増加した。しかし、交流の機会が増えたとは言え、日本人学生と外国人留学生との間で十分な交流が行われていると一概には言えない。「学校内で日本人学生と交流できなかった」と悩みや不満を訴える外国人留学生は少なくない。

そこで本稿では、キャンパス内での双方向的な交流の可能性を探るために、受け入れ側の日本人学生の視点から、キャンパス内の外国人留学生をどのように見ているかについてアンケート調査を実施した。

その結果、回答者である日本人学生は、外国人留学生の留学生活や学習意欲、日本語能力等を高く評価していた。また、外国人留学生との交流は自身のキャリアデザインに有益なものであると考え、外国人留学生との交流を希望していた。しかし、「言葉の壁」や「コミュニケーション」、「文化の違い」、「話題」等の不安や心配から、外国人留学生と友達になるために自分から積極的に活動を行っている人は少ないことが明らかになった。

#### キーワード

日本語 日本文化 日本人学生 外国人留学生 友人関係

#### 1 本研究の背景

2008年に日本政府が「留学生30万計画」を発表して以来、外国人留学生数は年々増加してきた。独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）によると、2018年5月1日現在の外国人留学生数は298,980人に上り、2020年までに外国人留学生を30万人誘致するという数値目標は概ね達成されたと言えよう。なぜ30万人という数値目標が設定されたかという、高等教育機関の全学生数に対する外国人留学生比率を、ドイツやフランス等の非英語圏先進国並みの10%程度に引き上げたいという政府の方針がその背景の一つにある<sup>1</sup>。この数値目標を達成すべく積極的に外国人留学生を誘致した結果、

2011 年の東日本大震災後に一時的に外国人留学生数の減少はあったものの、その後は外国人留学生数が急増し、全国の多くの大学ではキャンパス内の国際化が促進され、国際交流の機会が増加した<sup>2</sup>。

### 1.1 日本人学生と友達になることの難しさ

このような政策的な後押しもあり、これまで以上に日本人学生と外国人留学生とが自由に交流できる環境が整ってきたわけだが、実際は外国人留学生が日本人学生との交流や友人関係構築に関して悩みや不満を抱えているという。「平成 29 年度私費外国人留学生生活実態調査」(2019)によると、「来日後の苦労」として、「学校内で日本人学生と交流できないこと」を挙げた外国人留学生は 1,291 名 (22.6%) で第 4 位となっている<sup>3</sup>。また、「来日後の苦労で、克服できなかったこと」として、「学校内で日本人学生と交流できないこと」が 1,096 人 (19.2%) で第 3 位となっている<sup>4</sup>。このことから、外国人留学生が来日後、日本人学生と交流できないことに悩みを抱えており、日本に留学しているのに日本人の友達がなかなかできないという外国人留学生の複雑な心情を推し量ることができる。

### 1.2 受け入れ側である日本人学生の視点から

一般的に、留学生は留学先で異文化適応、言語、生活、学習等、様々な課題を抱えているが、その中でも友人関係の構築は、留学生の異文化適応、留学満足度、学習成績に深く関わるため、これまで多数研究されてきた (小松, 2016、呉, 2017)。また、日本人学生の海外留学に関する研究も同様の理由で研究が行われてきた (奥西他, 2009、田中他, 2011、有馬, 2014、2015、小島他, 2014、園田, 2017)。しかしながら、日本国内において日本人学生の立場から外国人留学生とどう関わりたいかについて研究したものは、管見ではこれまでない。

本稿では、日本人学生と外国人留学生の友人関係構築のための初期段階として、日本人学生を対象にアンケート調査を行い、大学入学以前、以後の外国人や外国人留学生のイメージ及び交流経験を調査する。それを基にして、日本人学生は現在最も身近にいるキャンパス内の外国人留学生をどのように見ているかを明らかにする。

## 2 調査概要

### 2.1 対象および方法

筆者が講義を担当する「日本語 (1)」(全学共通教養教育科目) の授業を受講する日本人学生 94 名を対象に調査を行った。調査時期は 2019 年 5 月中旬から下旬で、同志社大学の授業支援システム「e-class」内のアンケート機能を利用し、インターネット経由で実施した。学生には本調査の趣旨を説明し、アンケートの回答内容と成績とは無関係であることを説明した。

## 2.2 調査項目

調査項目については、日本人学生がキャンパス内の外国人留学生をどのように見ているかについて、イメージがどのように変わってきたかという変遷と今後の付き合い方を調査するために、①大学入学以前の外国人との交流及び外国人のイメージ（設問1～6）、②大学入学以後の外国人留学生との交流及び外国人留学生のイメージ（設問7～11）、③今後の外国人留学生との付き合い方（設問12～16）、という3つのパートで作成し、設問は選択式と自由記述式とした。なお、調査票は本稿末尾に示したとおりである。

## 3 調査結果

### 3.1 アンケート回答者について

本アンケート調査では、94名中90名から回答があり（回収率95.7%）、そのうち80名から有効回答を得た（有効回答回収率88.9%）。回答者の学年及び性別は表1のとおりである<sup>5</sup>。

表1 アンケート回答者の学年及び性別

単位 名 (%)

学年		1 回生	2 回生	3 回生	4 回生	総計
性別	男性	22 (27.5)	5 (6.3)	11 (13.8)	3 (3.8)	41 (51.3)
	女性	21 (26.3)	7 (8.8)	8 (10.0)	3 (3.8)	39 (48.8)
合計		43 (53.8)	12 (15.0)	19 (23.8)	6 (7.5)	80 (100)

### 3.2 各パートの結果と考察

#### 3.2.1 大学入学以前の外国人との交流及び外国人のイメージ

設問1では、「大学入学以前に、外国人や外国人留学生と接する機会があったか」について尋ねた。図1はその回答数を表したものである。

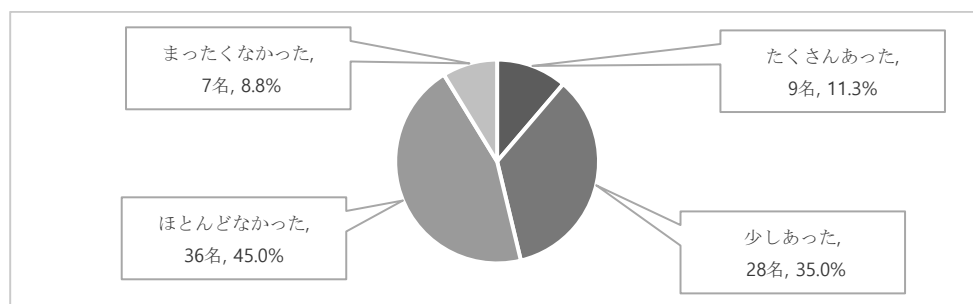


図1 設問1 大学入学以前に、外国人や外国人留学生と接する機会があったか

最も回答数が多かったのは「ほとんどなかった」36名(45.0%)で、次いで「少しあった」28名(35.0%)、「たくさんあった」9名(11.3%)「まったくなかった」7名(8.8%)だった。さらに、設問2では、「たくさんあった」もしくは「少しあった」と答えた回答者に、「どのような場面で、外国人や外国人留学生と接したか」について尋ねたところ、「外国人留学生」21名、「英語の授業の外国人講師」11名、「海外研修」7名、「外国人児童生徒」2名という回答があった<sup>6</sup>。大学入学以前は、主として学校内で外国人や外国人留学生との接触があったことがわかる。

設問3では、「小学校、中学校、高校に在籍中、クラスメイトの中に外国人児童生徒がいたか」について尋ねた。図2はその回答数を表したものである。

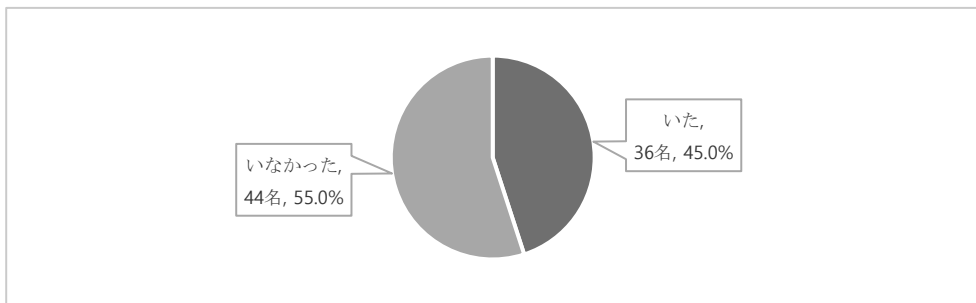


図2 設問3 小学校、中学校、高校に在席中、クラスメイトの中に外国人生徒がいたか

回答数をみると、「いた」36名(45.0%)、「いなかった」44名(55.0%)だったことから、ほぼ2人に1人は外国人児童生徒と過ごした経験があった。さらに、設問4では、「いた」と答えた回答者に対して、外国人児童生徒の国籍を尋ねたところ、中国15名、韓国8名、フィリピン6名、ブラジル6名、アメリカ5名、他12か国15名<sup>7</sup>の回答があった。なお、回答の中には複数の回答もあり、小学校・中学校・高校の計12年間で1か国の外国人生徒がクラスメイトだったと答えた回答者は23名、以下、2か国が6名、3か国が3名、4か国・5か国・6か国が各1名だった。

続いて、大学入学以前に、当時の日本人学生が外国人や外国人生徒に積極的に関わろうとしていたかを明らかにするために、設問1と設問3とのクロス集計を行った。表2はその結果を表したものである。

表2 設問1と設問3のクロス集計結果

単位 名(%)

選択肢	いた	いなかった	総計
たくさんあった・少しあった	21 (26.3)	16 (20.0)	37 (46.3)
ほとんどなかった・まったくなかった	15 (18.8)	28 (35.0)	43 (53.8)
総 計	36 (45.0)	44 (55.0)	80 (100.0)

日常的に外国人生徒がいる環境にあって、外国人や外国人留学生に積極的に関わろうとした回答者が21名（26.3%）いた一方で、あまり外国人留学生に関わろうとしなかった回答者が15名（18.8%）いた。また、日常的に外国人生徒がいる環境でなくても、他の外国人と積極的に関わろうとした回答者が16名（20.0%）いた一方で、外国人には関わろうとしなかった、もしくは、関わるができなかった回答者は28名（35.0%）いた。

設問5では、「大学入学以前に外国人の友達がいたか、また現在その関係が続いているか」について尋ねた。図3はその回答数を表したものである。

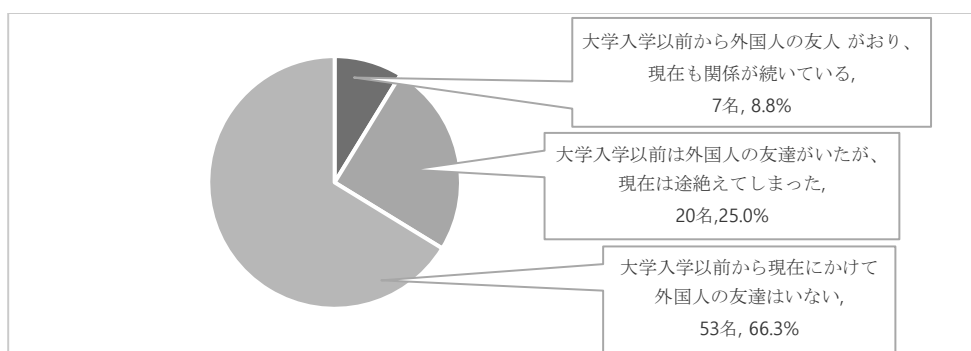


図3 設問5 外国人の友達の有無と現在の関係

「大学入学以前から現在にかけて外国人の友達はいない」と答えた回答者は53名（66.3%）で最も多く、「大学入学以前は外国人の友達がいたが、現在は途絶えてしまった」が20名（25.0%）、「大学入学以前から外国人の友達があり、現在も関係が続いている」と答えた回答者はわずか7名（8.8%）だった。

続いて、日本人学生と外国人や外国人留学生の関係持続性を明らかにするために設問1と設問5とのクロス集計を行った。表3はその結果を表したものである。

表3 設問1と設問5のクロス集計結果

単位 名 (%)

選択肢	たくさんあった	少しあった	ほとんどなかった	まったくなかった	総計
大学入学以前から外国人の友達があり、現在も関係が続いている	4 (5.0)	1 (1.3)	2 (2.5)	0 (0.0)	7 (8.8)
大学入学以前は外国人の友達がいたが、現在は途絶えてしまった	1 (1.3)	9 (11.3)	8 (10.0)	2 (2.5)	20 (25.0)
大学入学以前から現在にかけて外国人の友達はいない	4 (5.0)	18 (22.5)	26 (32.5)	5 (6.3)	53 (66.3)
総計	9 (11.3)	28 (35.0)	36 (45.0)	7 (8.8)	80 (100.0)

表3を見ると、「大学入学以前から外国人の友達があり、現在も関係が続いている」の回答者で外国人留学生や外国人留学生と接する機会が「たくさんあった」と回答し

た人は4名(5.0%)であり、「少しあった」や「ほとんどなかった」もわずかだが回答者がいた。また、「大学入学以前は外国人の友達があったが、現在は途絶えてしまった」の回答者で、外国人留学生や外国人留学生と接する機会が「少しあった」9名(11.3%)、「ほとんどなかった」8名(10.0%)と回答した人は合わせて17名(21.3%)であり、外国人や外国人留学生と接する機会が多くなっても友人関係を構築していたことがわかる。その後、大学入学後に友人関係が途絶えてしまった理由は、設問2の「学校内での接触が多かった」という結果から、高校卒業や大学進学による生活環境の変化のためではないかと考えられる。

設問6では、「大学入学以前、に外国人留学生に対してどのようなイメージを抱いていたか」について自由記述形式で尋ねた。表4はその回答を分類し回答数を表したものである。

表4 設問6 大学入学以前に外国人留学生に対してどのようなイメージを抱いていたか

大分類	回答数	小分類	回答数	回答例
肯定的	72	性格	19	・真面目で、何事にも一生懸命取り組むといったイメージ ・コミュニケーション能力が高くて誰とでも話しそう
		尊敬	15	・親元を離れて遠い国へ留学することはすごいなと思った ・日本に来て学ぼうとする精神が嬉しいし、尊敬できる
		日本・日本文化	11	・日本の文化が好きなイメージ ・日本に興味があって、行動力のある人たち
		学習意欲	11	・学習意欲が旺盛で、積極的に行動する ・日本語を頑張って勉強しに来ている人
		語学力	8	・母国語、英語、日本語等多くの言語を話することができる
		羨望	3	・母語以外の言語を通じてそれらを学ぶという勇氣に憧れを持っていた
		能力	3	・かなり頭が良い
		裕福	2	・お金がある上流階級の人々
否定的	8	日本語	4	・言葉が通じにくい中で大変そうなイメージ
		性格	2	・自分からだと話しかけづらい
		留学生活の大変さ	2	・海外まで出て勉強するのは大変そうだと思っていた
疑問	8			・なぜ日本に留学をすることを決めたのか ・日本はそんなに魅力的なのか
その他	8			・金髪の人が多そう ・自然にキャンパス内にいるものだと考えていた
総計	96			

まず、自由記述欄に書かれていた内容を整理したことで96の回答数となった。次に、内容によって「肯定的、否定的、疑問、その他」の4つの項目を作り、それぞれを分類した。「肯定的」の項目は「性格」、「尊敬」、「日本・日本文化」、「学習意欲」、「語学力」、「羨望」、「能力」、「裕福」というように8つの項目に分け、「否定的」は「日本語」、「性格」、「留学生活の大変さ」の3つの項目に分けた。「肯定的」の項目は、「真面目、明るい、勉強熱心」等の性格に関する評価が最も多く、次に「遠い異国の地で学習する姿」や「留学を決心したこと」を尊敬する内容が多かった。一方、「否定的」の項目は、「日本語が通じない」や「日本語の勉強が大変そうだ」といった不十分な日本語能力による生活の不便さを心配する回答が多く、続いて、「勉強ばかりしている姿」や「緊張している様子」から、話しかけにくいという回答があった。また、「疑問」に関しては、「なぜ日本語を勉強しているのか」や「なぜ日本に留学したのかわからない」といった回答があった。

### 3.2.2 大学入学以後の外国人留学生との交流及び外国人留学生のイメージ

設問7では、「大学入学後に外国人留学生と接する機会があったか」について尋ねた。図4はその回答数を表したものである。

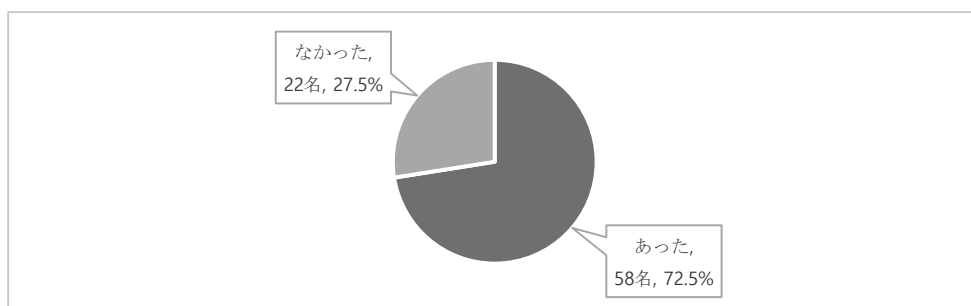


図4 設問7 大学入学後に外国人留学生と接する機会があったか

「あった」は58名（72.5％）で、「なかった」は22名（27.5％）であった。続いて、設問8において、「あった」と答えた回答者に対して、「どのような場面だったか」を自由記述形式で尋ねたところ、「授業」35名、「サークル活動」11名、「学部の合宿」6名、「交流会」4名、「ボランティア活動」1名という回答があった<sup>8</sup>。ただし、大学入学以前に比べ、外国人と接する機会は増加しているが、このような出会いのきっかけは「留学生からのアプローチ」や「授業などの人為的に作られた環境」によるものが多いと考えられ、日本人学生から外国人留学生への積極的なアプローチは多くないと考えられる。

続いて、設問9では、大学入学後に外国人留学生と接する機会が「あった」と答えた回答者に対して、その際に使用した言語について尋ねた。図5はその回答数を表したものである。

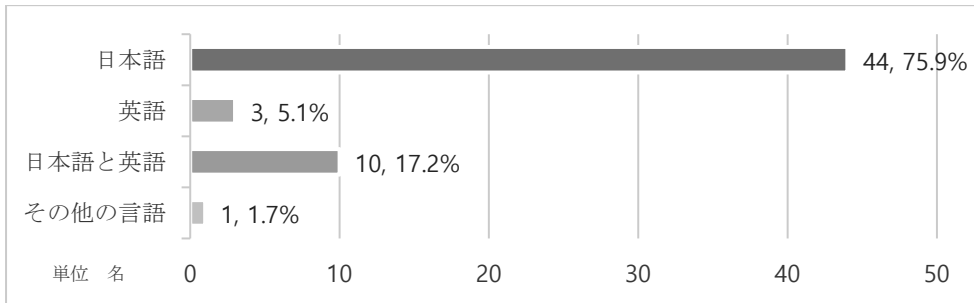


図5 設問9 外国人留学生と話す際に使用した言語

その結果、「日本語」44名（「あった」と答えた回答者の75.9%）、「英語」3名（同17.2%）、「日本語と英語」10名（同17.2%）であり、「あった」と答えた回答者の90%以上の日本人が日本語で外国人留学生と交流したということになる。

設問10では、「大学入学後に、外国人留学生に対するイメージに変化があったか」について尋ねた。図6はその回答数を表したものである。

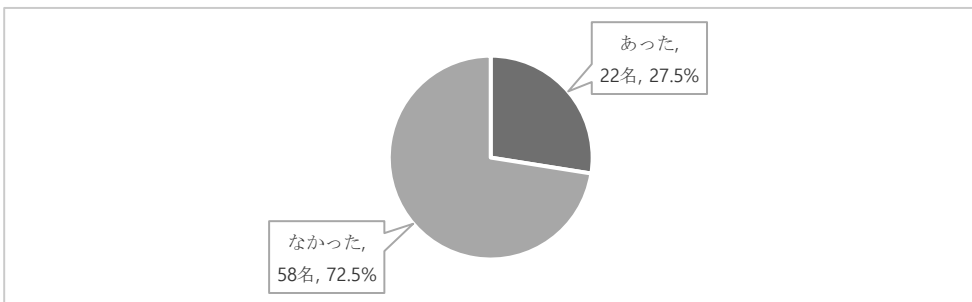


図6 設問10 大学入学後の外国人留学生へのイメージの変化

その結果、「あった」は22名（27.5%）で、「なかった」は58名（72.5%）だった。さらに、設問11において、「あった」と答えた回答者に対して、「どのようなイメージの変化があったか」を自由記述形式で尋ねた。表5はその回答を分類し回答数を表したものである。

まず、内容によって「肯定的変化」、「否定的変化」、「その他」の3つの項目を作り、分類した。その後、「肯定的変化」は「性格」、「日本語」、「尊敬」、「能力」、「学習意欲」の5つの項目に分けた。「肯定的変化」では、「性格」に関する回答が最も多く、「実際に話してみると日本人の大学生と変わらなかった」「留学生も普通の人間だった」といった回答が見られた。続いて、「日本語」に関して、「日本人の自分より日本語をよく知っている」「日本語が上手で意思疎通には問題なかった」という回答があった。一方、「否定的変化」では、「留学生だからと言ってみんなが英語を話せるわけではない」といった回答があった。



表 5 設問 11 大学入学後の外国人留学生へのイメージの変化

大分類	回答数	小分類	回答数	回答例
肯定的 変化	18	性格	7	・思ったよりも話しかけても大丈夫だった、むしろ人と話すのが好きな留学生が多かった ・実際に接したことで、普通の人間なのだと感じた
		日本語	6	・自分が思っているより留学生の日本語が上手 ・日本語が上手で、話しかけづらい雰囲気を持つ人はいなかった
		尊敬	2	・自分が留学を経験し、言語の通じない不便さ（少しのニュアンスの違いを母語ほど表現しきることが出来ない、など）を体感したので、より一層日本への留学生に対するリスペクトが強まった ・真面目なイメージは当たっていたが、自分が考えていた以上に授業に取り組む姿勢がとても真剣で素晴らしいかった
		能力	1	・元から能力が高い印象があり、それが強まった。
		学習意欲	1	・すごく勉強熱心で、自分よりも日本のことをよく知っているというイメージに変わった
		否定的 変化	1	外国語
その他	3			・日本語を勉強しにきているのではなく、文化や考え方を勉強しにきているのだというイメージに変わった
				・白人の学生よりはアジア系の学生がどちらかというと大学内には多いということに気がついた
				・勉強熱心で、学校生活よりも勉強、というイメージだったが、私たちのように日常の生活も楽しんでいるように見えたので、私たちとなんら変わりはない、同じ学生だと感じた
総計	22			

では、設問 10 でイメージに変化が「あった」と答えた回答者 22 名（27.5%）は大学入学以前と大学入学後の外国人留学生のイメージにはどのような変化があったのだろうか。設問 6 と設問 11 との比較を行った結果、次のような 4 つの観点から変化が見られた。

#### 1. 「親しみやすさ」について

例 1 前 自分からだと話しかけづらい

後 思ったよりも話しかけても大丈夫だった、むしろ人と話すのが好きな留学生が多かった。

例 2 前 真面目で、何事にも一生懸命取り組むといったイメージを持っていた。

後 以前から持っていたイメージに加えて、フレンドリーなイメージも持つようになった。

「親しみやすさ」については、例 1 のように、大学入学前から外国人留学生には話しかけにくいと思っていた回答者が、実際に外国人留学生に話しかけてみると、とても気さくで親しみやすかったという場合と、例 2 のように、プラスのイメージを持っていたが、実際に接してみると、その気持ちがさらに強まったというイメージの変化があった。

## 2. 「日本語」について

- 例 3 前 日本語があまり通じないイメージ  
後 日本語を流暢に話することができる。
- 例 4 前 日本語を頑張って勉強しに来ている人  
後 自分が思っているより留学生の日本語が上手

「日本語」については、例 3 や例 4 のように、大学入学前は外国人留学生の日本語能力を過小評価していたが、実際に外国人留学生と話したり、彼らの日本語を聞いたりしてみると、非常に流暢で彼らの日本語能力に驚いたという回答だった。

## 3. 「学習態度」について

- 例 5 前 母国語、英語、日本語など多くの言語を話することができる。  
とても真面目。  
後 真面目なイメージは当たっていたが、自分が考えていた以上に授業に取り組む姿勢がとても真剣で素晴らしかった。
- 例 6 前 日本語を勉強しても、日本でしか使えないのに何故わざわざ来るのか、変わった人だというイメージ  
後 日本語を勉強しにきているのではなく、文化や考え方を勉強しにきているんだというイメージに変わった。

「学習態度」については、例 5 のように、大学入学以前から外国人留学生は真面目だというイメージをもっており、大学入学後、実際に彼らと学習態度を目の当たりにし、さらにその気持ちが強くなったという回答があった。また、例 6 のように、留学生は語学を勉強するものだという固定観念をもっていたが、日本語を勉強しつつ様々な分野を勉強していると気づいた回答者もいた。

## 4. 「留学生に対する固定観念」について

- 例 7 前 母国語じゃない環境で敢えて勉強するのは大変だろうなと感心していた。  
後 実際に接したことで、普通の人間なんだと感じた。

- 例8 前 とても勉強熱心な人たち、日本に来られるくらいのお金持ちの人たちというイメージがあった。
- 後 私たちのように日常の生活も楽しんでいるように見えたので、私たちとなんら変わりはない、同じ学生だと感じた。

「留学生に対する固定観念」については、例7や例8のように「留学」や「留学生」に対する固定概念や偏見を持っていたが、実際に接してみると、自分たち日本人学生と何ら変わらないことに気づいたという回答があった。

### 3.2.3 今後の外国人留学生との付き合い方

設問12では、「今後外国人留学生と友達になりたいか」について尋ねた。図7はその回答数を表したものである。

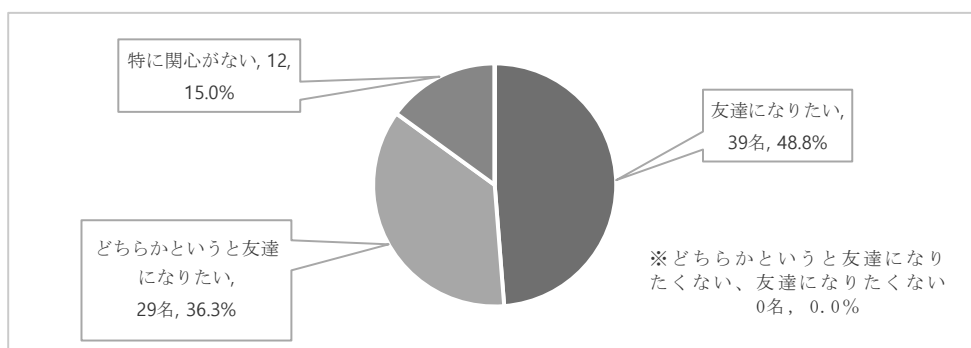


図7 設問12 外国人留学生と友達になりたいか

「友達になりたい」39名（48.8%）、「どちらかという友達になりたい」29名（36.3%）で、「友達になりたい」、「どちらかという友達になりたい」を合わせると68名（85.0%）だった。他方、「特に関心がない」は12名（15.0%）で、「どちらかという友達になりたくない」、「友達になりたくない」と答えた回答者はいなかった。

さらに、設問13では、「友達になりたい」「どちらかという友達になりたい」と答えた回答者を対象に、なぜ友達になりたいか、その理由を尋ねた。表6はその回答を分類し回答数を表したものである。

表 6 設問 13 外国人留学生と友達になりたい理由

分類	回答数	回答例
知識の吸収	26	・その友達の国の文化を知ることが出来るため ・自分が知らない外国の文化や習慣を知ることができると思うから
異文化体験	16	・日本人とはまた違った話ができて楽しいから ・海外に行ったことのない自分に新鮮な情報を与えてくれると考えるから
異なる価値観	12	・自分とは異なる文化背景をもっており、その違いが面白そうだから ・生活環境や文化が違う国の人がどのように物事を考えているかを知りたい
外国語学習	10	・外国語を教えてもらいたいから ・英語を話せるようになりたいからです
友達	9	・海外に友達がほしいと前から思っていたから。 ・様々な人と交流して自分のコミュニケーション能力を高めたい
客観的視点	6	・相手の国のことを知り、自国の文化を見つめ直すいい機会になるから ・日本の中だけで物事を見るのではなくて外からの見方も知りたいから
新たな刺激	4	・高い学習意欲を少しでも共有したいから ・自分では考えないような考えを持っていて、刺激を受けるから
将来の仕事	1	・将来、海外で働きたいと考えている私にとってとても有益だから
総計	84	

まず、自由記述欄に書かれていた内容を整理したところ 84 の回答数となった。次に、内容によって「知識の吸収」、「異文化体験」、「異なる価値観」、「外国語学習」、「友達」、「客観的視点」、「新たな刺激」、「将来の仕事」の 8 つに分類した。最も回答数が多かった項目は「知識の吸収」(26 名)で、続いて「異文化体験」(16 名)、「異なる価値観」(12 名)、「外国語学習」(10 名)だった。この結果から、日本人学生は自分たちとは違った背景を持つ外国人留学生から多くの経験や知識を得たいと考えており、このような外国人留学生との交流は自身のキャリアデザインに有益なものであると考えていることがわかる。

次に、設問 14 では「現在、外国人留学生と親しくなるために何か活動を行っているか」について尋ねた。図 8 はその回答数を表したものである。

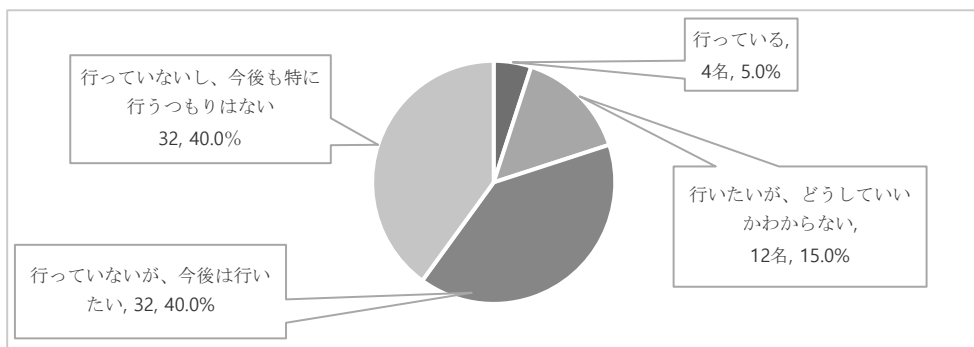


図 8 設問 14 現在、外国人留学生と親しくなるために何か活動を行っているか

外国人留学生と親しくなるために何か活動を行っている」4名（5.0%）、「行いたい、どうしていいかわからない」12名（15.0%）だった。さらに、「行っていないが、今後は行いたい」は32名（40.0%）だった。他方、「行っていないし、今後も特に行くつもりはない」と答えた回答者は32名（40.0%）だった。

では、外国人留学生と友達になりたいか、そのために積極的に活動を行っているかについての関係性をみることにする。図9は、設問12と設問14をクロス集計した結果である。なお、設問12の選択肢である「どちらかという友達になりたくない」と「友達になりたくない」は回答数がゼロのため削除している。

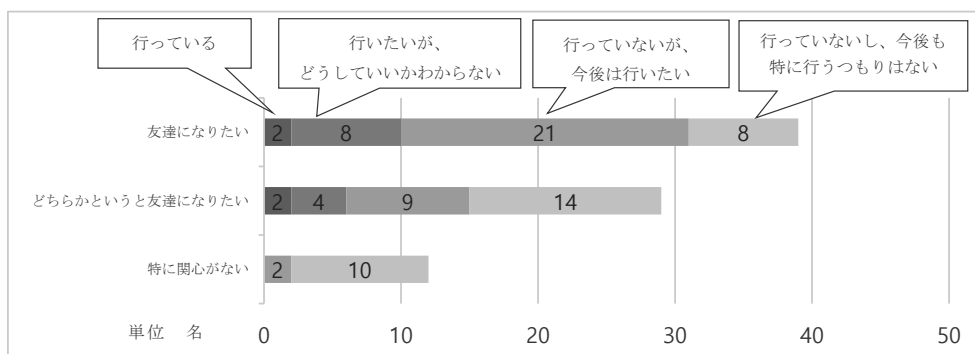


図9 設問12と設問14のクロス集計結果

「友達になりたい」39名（48.8%）に関して、設問14の「外国人留学生と親しくなるために何か活動を行っているか」という質問に対して「行っている」と答えた回答者はわずか2名（2.5%）に過ぎず、「行いたい、どうしていいかわからない」8名（10.0%）、「行っていないが、今後は行いたい」21名（26.3%）となっている。また、「どちらかという友達になりたい」29名（36.3%）に関しては、「行っている」2名（2.5%）、「行いたい、どうしていいかわからない」4名（10.0%）、「行っていないが、今後は行いたい」9名（26.3%）となっている一方で、「行っていないし、今後も特に行くつもりはない」14名（17.5%）が目立つ。この結果より、外国人留学生と友達になりたいと考えてはいるものの、現時点で積極的に外国人留学生と友達になるための行動を起こしている日本人学生は少なく、外国人留学生との関係構築は受け身の姿勢であることがわかる。なお、「特に関心がない」が12名（15.0%）もいたことについては、回答者の属性として1回生が多かったこと、あるいは、理系やスポーツ系の学部 to 所属する回答者がいたことが影響を与えたのではないかと考えられる。

続いて、設問15では「外国人留学生と交流する上で、何か心配や不安があるか」について尋ねた。図10はその回答数を表したものである。

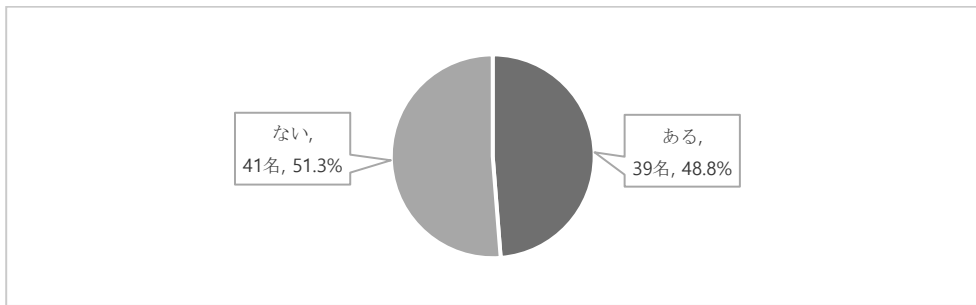


図 10 設問 15 外国人留学生と交流する上で、何か不安や心配があるか

外国人留学生と交流する上で、不安や心配が「ある」は 39 名 (48.8%)、「ない」は 41 名 (51.3%) だった。さらに、設問 16 では、不安や心配が「ある」と答えた回答者を対象に、どのような不安や心配かを具体的に記述してもらった。表 7 はその回答を分類し回答数を表したものである。

表 7 設問 16 どのような不安や心配があるか

分類	回答数	回答例
言葉の壁	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もし日本語が話せなかった場合、うまくコミュニケーションがとれる自信がない</li> <li>・自分の英語力が低くて、話せないと思う</li> </ul>
コミュニケーション	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えたいことがちゃんと相手に伝えられるか不安</li> <li>・日本語を話せたとしても気難しい性格の人であれば、何か怒られそう</li> </ul>
文化の違い	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本と外国の価値観の違いから、相手に嫌な思いをさせてしまうかもしれない</li> <li>・文化の違いが原因で、気づかないうちに失礼な言動をしていないか心配</li> </ul>
話題	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いくら日本に馴染んでいるとはいえ、日本のマニアックな文化や特有の冗談などが通じるのかと心配してしまう</li> <li>・母国のことについて、どこまで踏み込んでいいかわからない</li> </ul>
その他	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が日本のことを知らなさすぎて質問されると困る</li> <li>・何かトラブルが起きた時にどう対処すれば良いのか分からない</li> </ul>
総計	46	

まず、自由記述欄に書かれていた内容を整理すると、46 の回答数となった。次に、内容によって「言葉の壁」、「コミュニケーション」、「文化の違い」、「話題」、「その他」の 5 つに分類した。一つ目の「言葉の壁」(18 名) は、多くの回答者が、英語や外国人留学生の母語等の外国語を話すことに対して苦手意識を抱いていた。二つ目の「コミュニケーション」(12 名) については、相手に誤解を与えずに外国語で話せるか、また、日本語で意思疎通が可能だとしても、相手に自分の発言意図を理解してもらえないのではないかという懸念を抱いていた。三つ目の「文化の違い」(8 名) については、文化の違いや価値観の相違により、自分が行っている言動が外国人留学生を不快にさせ

るのではないかという心配や配慮の気持ちを抱いていた。四つ目の「話題」（6名）については、外国人留学生と何を話せばいいかわからない、あるいは、もし話題が見つからなければ気まずい雰囲気になってしまうのではないかという不安を抱いていた。

最後に、外国人留学生と友達になりたいという意向と、外国人留学生と交流する際の不安や心配事の関係性を考えてみることにする。図 11 は設問 12 と設問 15 のクロス集計の結果を表したものである。

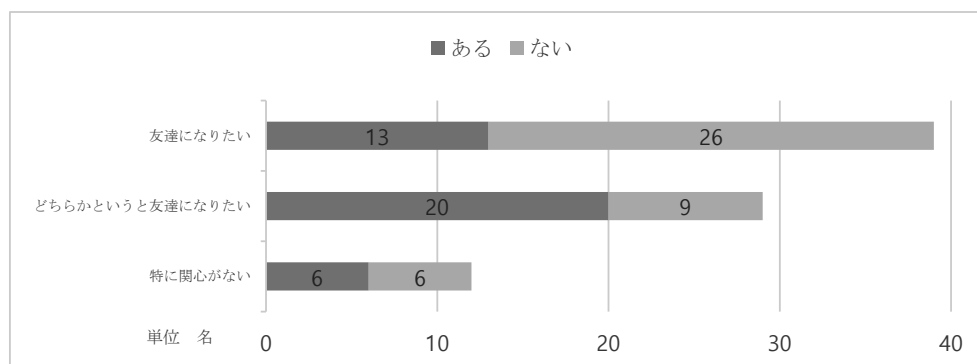


図 11 設問 12 と設問 15 のクロス集計結果

設問 12 の「外国人留学生と友達になりたいか」という質問に対して、「友達になりたい」39 名（48.8%）だが、「外国人留学生と交流する上で、何か不安や心配があるか」という質問に対して、「ある」13 名（16.3%）、「ない」26 名（32.5%）で、「ない」と答えた回答者が多かった。一方、設問 12 で「どちらかというと友達になりたい」と答えた回答者は、設問 15 の質問に対して、「ある」20 名（25.0%）、「ない」9 名（11.2%）で、「ある」と答えた回答者が多かった。この結果より、「友達になりたい」と考えている回答者は、不安や心配が「ない」と答えた回答者が多かったが、その理由として、国際交流に関する情報収集を積極的に行い、心構えや準備を整えているためではないかと考えられる。一方、「どちらかというと友達になりたい」と漠然と考えている回答者は準備が整っていないため、不安や心配が「ある」と答えたのではないかと考えられる。

#### 4 おわりに

「留学生 30 万人計画」推進によって、日本全国の多くの大学においてキャンパス内の国際化が進んだが、その一方で、多くの外国人留学生が「学校内で日本人学生と交流できない」という悩みを抱えている。本稿では、その悩みの理由を、日本人学生の内面的な要因から解き明かすべく、日本人学生はキャンパス内に大勢いる外国人留学生についてどのように思っているのか、アンケート調査を実施し考察を行った。

その結果、「大学入学以前の外国人との交流及び外国人のイメージ」のパートより、回答者である日本人学生は、大学入学以前にも主として学校内で外国人や外国人留

生と接する機会があり、外国人や外国人留学生に対し概ね良いイメージを抱いていた。しかし、当時知り合った外国人や外国人留学生との友人関係を、大学入学後も継続している人はあまりいなかった。

続いて、「大学入学以後の外国人留学生との交流及び外国人留学生のイメージ」のパートより、日本人学生は、大学入学以後、授業やサークル活動を通して新たに外国人留学生と交流する機会が増えたが、自分たちとほとんど変わらない大学生活を送る外国人留学生との交流を通して、外国人留学生の留学生活や学習意欲、日本語能力等を高く評価していた。

最後に、「今後の外国人留学生との付き合い方」のパートより、日本人学生は外国人留学生との交流は自身のキャリアデザインに有益なものであると考え、外国人留学生との交流を希望しているが、「言葉の壁」や「コミュニケーション」、「文化の違い」、「話題」等の心配や不安が理由となり、自分から積極的に外国人留学生と友達になるための活動を行っている人は少なかった。

外国人留学生が日本人学生と交流するのが難しい要因については、日本人学生、外国人留学生のどちらか一方にあるものではなく、双方、もしくは、環境も含めた複合的な要因と捉えるべきである。そのような意味で、今回のアンケート調査を通して日本人学生側の内面的な要因が明らかになったことには意義がある。今回の研究においては、外国人留学生を調査対象としなかったが、日本人学生と外国人留学生との視点の比較については今後の研究課題としたい。

## 注

- 1 文部科学省 HP の事前分析表（平成 30 年度実施施策）の「施策目標 13-1 国際交流の推進」より
- 2 ちなみに、同志社大学では、2019 年現在、学部学生数及び大学院生の学生数は 28,932 名、外国人留学生数は 1,503 名で、全学生数に対する外国人留学生比率は約 5.2% である。（同志社大学 HP より）
- 3 設問は「留学後の苦労」だが、本稿では便宜上「来日後」に変更している。最も回答者が多かったのは、「物価が高い」4,219 人（74.0%）で、以下、「日常生活における母国の習慣（生活習慣、宗教上の習慣等）との違い」1,972 人（34.6%）、「日本語の習得」1,750 人（30.7%）と続く。なお、回答方式は複数回答であった。
- 4 設問は「留学後の苦労で克服できなかったこと」だが、本稿では便宜上「来日後の苦労で克服できなかったこと」に変更している。最も回答者が多かったのは、「物価が高い」3,084 人（54.1%）で、次に「日常生活における母国の習慣（生活習慣、宗教上の習慣等）との違い」1,158 人（20.3%）、「英語の習得」と「学校内で日本人学生と交流できないこと」が共に 1,096 人（19.2%）で同順位であった。なお、回答方式は複数回答であった。
- 5 所属学部は、文学部、文化情報学部、心理学部、グローバルコミュニケーション学部、



スポーツ健康科学部、理工学部である。なお、本調査では外国人留学生の回答は除外している。

- 6 複数記述している回答は別々に集計した。
- 7 タイ 3 名、ベトナム 2 名、エジプト・オーストラリア・コロンビア・スイス・ドイツ・ネパール・フランス・ポルトガル・ミャンマー・南アフリカ各 1 名
- 8 複数記述している回答は別々に集計した。

## 参考文献

- 有馬明恵（2014）「日本人学生の内向き志向に関する研究（1）尺度の構成と性差の検討」、『東京女子大学紀要論集』第 65 巻 1 号，東京女子大学，pp.63-82.
- （2015）「日本人学生の内向き志向に関する研究（2）異文化接触経験とグローバル意識の関係」、『東京女子大学紀要論集』第 65 巻 2 号，東京女子大学，pp.159-179.
- 奥西有理・田中共子（2009）「多文化環境下における日本人大学生の異文化葛藤への対応 — AUC - GS 学習モデルに基づく類型の探索—」、『多文化関係学』第 6 巻，多文化関係学会，pp.53-68.
- 呉曉良（2017）「在日中国人留学生の友人関係構築における阻害要因：K 大学在学生の事例を通して」、『比較文化研究』第 128 号，日本比較文化学会，pp.165-177.
- 小島奈々恵・内野悌司・磯部典子・高田純・二本松美里・岡本百合・三宅典恵・神人蘭・矢式寿子・吉原正治（2014）「日本人大学生の海外留学に関する意識調査 — 『内向き志向』と留学意思の関係」、『総合保健科学』，広島大学，Vol30,pp.21-26.
- 小松翠（2016）「中国人留学生の友人関係不満に関する原因帰属と日本人イメージの関連について」、『高等教育と学生支援』第 7 号，お茶の水女子大学，pp.128-139.
- 園田智子（2017）「日本人大学生の海外経験における異文化間葛藤事例に関する研究 — 自由記述式質問紙調査の結果から—」、『群馬大学国際教育・研究センター論集』16 号，群馬大学国際教育・研究センター，pp.1-11.
- 田中共子・畠中香織・奥西有理（2011）「日本人学生が在日留学生の友人に期待する行動 — 異文化間ソーシャル・スキルの実践による異文化間対人関係形成への示唆」、『多文化関係学』，多文化関係学会，第 8 巻，pp.35-54.
- 同志社大学「同志社大学学生数」  
<[https://www.doshisha.ac.jp/information/overview/students\\_total.html](https://www.doshisha.ac.jp/information/overview/students_total.html)>（参照 2019 年 5 月 20 日）.
- 独立行政法人日本学生支援機構（2019）「平成 30 年度外国人留学生在籍状況調査結果」  
<[https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl\\_student\\_e/2018/index.html](https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/2018/index.html)>（参照 2019 年 5 月 20 日）.
- （2019）「平成 29 年度私費外国人留学生生活実態調査」  
<[https://www.jasso.go.jp/about/statistics/ryuj\\_chosa/h29.html](https://www.jasso.go.jp/about/statistics/ryuj_chosa/h29.html)>（参照 2019 年 5 月 20 日）.

文部科学省「事前分析表（平成 30 年度実施施策）」

<[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/hyouka/bunseki/1409678.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/hyouka/bunseki/1409678.htm)>（参照 2019 年 6 月 11 日）.

## 資料

- 設問 1 大学入学以前に、外国人や外国人留学生と接する機会がありましたか。
1. たくさんあった
  2. 少しあった
  3. ほとんどなかった
  4. まったくなかった
- 設問 2 「たくさんあった、少しあった」と答えた人に聞きます。どのような場面で、外国人や外国人留学生と接する機会がありましたか。
- 設問 3 あなたが小学校、中学校、高校に在学中に、クラスメイトの中に外国人児童生徒がいましたか。
1. いた
  2. いなかった
- 設問 4 「いた」と答えた人に聞きます。その生徒の国籍を教えてください。
- 設問 5 大学入学以前に、外国人の友達がありましたか。
1. 大学入学以前から外国人の友達があり、現在も関係が続いている
  2. 大学入学以前は外国人の友達でしたが、現在は途絶えてしまった
  3. 大学入学以前から現在にかけて外国人の友達はいない
- 設問 6 大学入学以前に、外国人留学生に対してどのようなイメージを抱いていましたか。  
自由に書いてください
- 設問 7 大学入学後に外国人留学生と接する機会がありましたか。
1. あった
  2. なかった
- 設問 8 「あった」と答えた人に聞きます。どのような場面で外国人留学生と接する機会がありましたか。

設問9 「あった」と答えた人に聞きます。その際、使用した言語は何ですか。

1. 日本語
2. 英語
3. 日本語と英語
4. その他の言語

設問10 大学入学後に、外国人留学生に対するイメージに変化がありましたか。

1. あった
2. なかった

設問11 「あった」と答えた人に聞きます。どのようなイメージの変化がありましたか。

設問12 外国人留学生と友達になりたいと思いますか。

1. 友達になりたい
2. どちらかと言うと友達になりたい
3. 特に関心がない
4. どちらかという友達になりたくない
5. 友達になりたくない

設問13 「友達になりたい、どちらかという友達になりたい」と答えた人に聞きます。その理由は何ですか。

設問14 現在、外国人留学生と親しくなるために何か活動を行っていますか。

1. 行っている
2. 行いたい、どうしていいかわからない
3. 行っていないが、今後は行いたい
4. 行っていないし、今後も特に行うつもりはない

設問15 外国人留学生と接する上で、何か心配や不安がありますか。

1. ある
2. ない

設問16 「ある」と答えた人に聞きます。具体的に記入してください。

以上

